

はい、皆様こんにちは、いかがお過ごしでしょうか？マア今回も坂井先生のコラムが届いております。
皆さんは先日、ここでも紹介させて頂いた、生野支援学校主催で行われた坂井先生の講演会には行かれましたでしょうか？サンフェイスからもかなりの数のスタッフ達が行ってましたよ。もちろん宿直明けの僕も聴きに行きましたが、相変わらずの坂井節・・・聞き惚れてしまいました。あの自分の力と周囲の理解と支援機器の充実の棒グラフ。あれはほんとによく出来てますよねえ・・・あれが出来た時に坂井先生から「久田、あれ良いやる？」と言われたのを思い出します(^_^)あと、解りやすいのは、自分が入院した時に、大嫌いな食べ物を持ってやって来る大好きな芸能人と、大好きな食べ物を持ってやって来る坂井先生。どちらが良いか？ってやつ。あれは、佐々木先生が言ってる「支援教育で一番厄介なのは『理解の無い熱心な支援者』です」あの言葉を解りやすくしたやつですねえ〜。
ま、とにかく「原点回帰」するには坂井先生のお話は最高で解りやすいと思います。そのうちサンフェイス主催で講演会やってもらいます！
カフェB.S.Cで座談会的な・・・良い感じでしょ？ま、忙しすぎますからねえ〜・・・そのうち・・・是非！！ 久田

第30回『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

☆送り手と受け手

今回は、コミュニケーションする際のメッセージの送り手と受け手に注目してみたいと思います。

送り手と、受け手というのは、人と人との間でコミュニケーションがうまく成立する場合、コミュニケーションしているその人が、送り手の役割をもつと同時に受け手の役割をもつということを表しています。

例えば、太郎さんがメッセージを花子さんに送る場合を考えてみましょう。そのときは、太郎さんはメッセージの送り手で、それに対して花子さんはメッセージの受け手と考えることができます。しかし、コミュニケーションはそれでは終わりません。続いて、花子さんが送られてきたメッセージへの反応として、太郎さんにメッセージを返す場合は、花子さんが送り手になり、太郎さんは受け手になります。やりとりが続く限り、このようなことが繰り返されることとなります。つまり、対人コミュニケーションが成立している場合には、常に、メッセージの送り手と受け手の役割が瞬時に入れ替わっているということなのです。

このような典型的な対人コミュニケーションの場面では、コミュニケーションの当事者（ここでは、太郎さんと花子さん）はメッセージの送り手であると同時に受け手でもあるということなのです。

発達障がいのある人の中には、送り手と受け手といった立場を入れ替えることができないことが原因でトラブルを抱えてしまう人がいます。流暢にしゃべる人でも、聞き手の反応にあまり注意を払わないで話し続けるといったことを見かけることがよくあります。聞き手の気持ちにお構いなしに次々と話し続けたり質問し続けたりする光景も見る事がよくあります。このことが原因でクラスの中でトラブルになってしまうこともあるのです。

このようなトラブルになるのは、受け手側の気持ちなどが現れている非言語的なメッセージを理解することができないということが主たる原因なのですが、それだけではなく、送り手と受け手の役割を交代することができないということも原因の一つとして考えられるのです。

このような場合、どう対応していけばよいのでしょうか。

役割交代をすることができないことが原因で、コミュニケーションをすることができないというように考えられる場合は、役割交代の練習をすることが大切になります。ロールプレイなどする場を設定し、役割を交代する練習を繰り返すようにするのです。「太郎ちゃんのいけないところは、人の話を聞かないで、一方的に話すところですよ人の話を聞きなさい。」と言って指導するのではなく、人の話を聴くことができないのは、役割を交代することができない結果かもしれないと考えて指導するようにするのです。

一対一で関わる場面を設定し、順番を交代しながら会話を続けるような練習が必要です。この場合、子どもが興味関心をもっている内容で練習することが効果的です。

また、ゲームなどをとおして役割を交代する練習をすることも効果的な場合があります。黒ひげゲームやすでろく、トランプなどのカードゲームなど、順番を交代する場面が明確なゲームなどが利用できます。

試してみてくださいね。

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里）クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会）自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンバument研究所）など